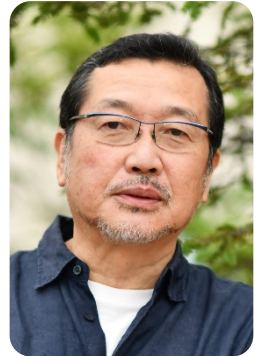

「復帰50年、新たな危機にある沖縄」

立憲フォーラム・戦争をさせない1000人委員会 共催

5.19院内集会

5月19日(木) 午後5時～ 参議院議員会館1階 講堂

講師：半田滋さん (防衛ジャーナリスト)



ロシアのウクライナ侵攻をめぐり、中国の習近平国家主席はロシアへの経済制裁、ウクライナへの武器供与といった西側諸国の対抗策が成果を挙げられるのか、息を殺して見つめていることだろう。中国が台湾に侵攻すれば、我が身に降りかかる事柄だからだ。

習氏とロシアのプーチン大統領はそれぞれ憲法を改正し、最高権力者の地位を延命した。プーチン氏は2036年まで大統領を続けられ、習氏は1期5年の国家主席を何期でも繰り返すことができる。

今秋の共産党大会で異例の3期目突入が確実な習氏が長期政権を狙うならば、成果を求められる。そして中国にとって台湾統一以上の成果は考えにくい。

台湾有事が発生し、日本が巻き込まれるには条件がある。米国が参戦すること、安全保障関連法によって日本が対米支援を実施することの2点である。

沖縄には米軍専用施設の7割が集中し、出撃基地として利用されれば、間違いなく沖縄が戦場になる。宮古島や奄美大島に開設された自衛隊のミサイル基地も米軍の出撃基地として利用され、攻撃対象となるのは間違いない。

自衛隊と米軍は昨年から今年にかけて、南西諸島や南シナ海で共同訓練を繰り返している。台湾有事は差し迫っているのだろうか。(半田滋さんより)

無料です。どなたも参加できます。

マスクの着用など、新型コロナ感染症対策の上、ご参加ください。

◆院内集会後の議員会館前抗議行動にも、ご参加ください。

午後6時30分～ 議員会館前 総がかり行動主催

◇立憲フォーラムの新刊ブックレット◇ 1部100円 10部以上送料無料

申し込みは メール fukuda@haskap.net か FAX 03-3303-4739 で担当福田まで

『台湾有事で踏み越える専守防衛 ～敵基地攻撃と日米一体化～』半田 滋/防衛ジャーナリスト

『政策破綻に向かう 岸田「新資本主義」』金子 勝/立教大学特任教授・慶應義塾大学名誉教授